

子どもが生み出す造形活動

～ 1年間のあゆみ～



園長コラム

#05

今年も、どろんこ遊びをよくしていましたので、子どもたちの絵も伸び伸びとした絵がだいぶありました。保育園では、当然設定されることも多くありますが、園生活の中で、自由度がどれだけ高いか、子どもが主体的に遊ぶことができるための人的・物的環境がどれだけ整えられているか。これらのことが、子どもたちの美術文化の形成、高まりに大きく影響します。

子どもが子どもとして、取り組む造形活動は、生きる基礎・基本の力を育むもので、生活=遊びのすべてであります。春になったらまた外でたくさん遊びたいとおもいます。



稲光園園長 佐々木法音



現代美術作家
長谷光城氏

人類が二足歩行をするようになって、前足は手となりました。

その手が自然の素材に関わりながら、変化させる行為が造形活動へと発展してきました。人間は早くから美術文化と話し言葉を獲得し、その

後に文字文化を獲得してきました。

言葉にはイメージを高める力があります。しかし、豊かな遊び、造形活動がなく話し言葉のみが先行すれば、概念画を生み出します。

子供たちは絵を描いて認識を高めます。子供たちは絵や造形活動と話し言葉で美術文化をつくりだし、その後に文字文化を獲得します。

故に、保育園時代の造形活動は人としての基盤を作る時代といってもいいと思います。



稲光園「多目的ホール」にて児童の作品を保護者に説明

木彫家 上妻利弘氏

「造形指導」という聞きなれないことをかれこれもう何年もやっている。幼児教育の中にアートを取り組ませるといことみたいだ。イタリアではすでに80年近く前から行われていること。

日本での取り組みも、数ある保育園のなかでも意識の高いところだけだ。

園児にアートを教える、なんてことではない。僕の場合。こんな楽しいこともあるよ、やってみない！という感じだ。小さい子供に、やらせる・上からさせるってことは意味がない。本人がしたいこと、楽しいって本当に思えることだけでいい。大人がどんなにつまらいと感ずることも、子どもたちにとって楽しいことならどんどんやらせることだ。大人の狭い領分で采配しても、全く意味がないと認める。好きなことをやる時の集中力は、半端ない。それが、将来意味のあることにつながる。

いつも言ってることだが、小さい時にどれだけ好きなことに集中できたかで、その子の将来は決まるといっても過言ではないと思っている。この前の教室で、板にただ釘を打つ、っていう授業をした。ただの釘打ちだ。子どもたちの集中力はすごかった。楽しくて仕方ないみたいで、なかなかやめない。金槌で手を何回もうってもだ。教える、というより、自分も楽しんでる。人生楽しまない！



社会福祉法人 善照福祉会

稲光園

園長だより



2018年春号





ゆりえ



そら



あかり



あいら



はる



かいと



れな

第10回
いのちかがやく子ども美術展
in KUMAMOTO
卒園記念展
at メガネの大宝堂 - 地下アートスペース -



ゆうか



ゆきの



まさと



よう



かんとろう



ゆな



みき



なおや



ちはや



ふうと



かえで



まりん



ここね